地方留学促進政策と留学生の社会統合の課題－南オーストラリア州の事例から－

Challenges of the Policy to Promote Study in Regional Areas and Social Integration of International Students: Case Study of the State of South Australia

佐藤由利子（東京工業大学）
Yuriko SATO (Tokyo Institute of Technology)

キーワード：留学生、社会統合、地方留学

オーストラリアの技術移民政策の特徴の一つは、人口増加率が低い地方に人材が留学、定着するよう促進策が採られてきたことである。2003 年に一般技術移住のポイントテストにおいて、人口増加率が低い地域への 2 年以上の留学に 5 点のボーナスポイントが与えられるようになり、2004 年には、地方に 2 年以上居住し 1 年以上の就労経験を持つ者を対象に技術独立地方ビザが新設され、2005 年には、州・準州政府の推薦があれば同ビザ申請時に 10 点が付与されることとなった。2012 年に導入された SkillSelect 制度では、永住権への関心表明を行った申請者の情報がポイントテスト結果とともに 2 年間登録され、登録者が必要な人材と判定され、招待された場合にのみ永住権の申請が可能となったが、登録時に地方で働く意思を表明することにより、申請に招待される可能性が高まるため、地方の技術者不足の解消が図れるとされている(DIAC, 2013)。

本政策の恩恵を受けて留学生を増加してきたのが、南オーストラリア（SA）州である。1998 年に州政府、アデレード市及び 3 大学が Education Adelaide（EA）を設立し、留学生の誘致と社会統合に積極的に取り組んできた。国際教育助言協議会議長 Chaney は「Australia Educating Globally」（2013）の中で、EA が州の関係団体と連携して実施したアデレード市長による歓迎会、州の観光名所案内、州首相による送別会などを Education Adelaide モデルとして称賛している。また、州政府の Office of Training Advocate（訓練擁護官事務所）が、学生・訓練生の権利擁護のための相談と支援にあたっている。

このように、留学生の誘致に成功し、社会統合に積極的に取組んでいる SA 州であるが、州政府は 2015 年に EA への予算支出（年間 160 万豪ドル）を終了する方針であるという。

本稿では SA 州における留学生及び関係者への聞き取り調査と州の戦略計画の分析から、同州における留学生の急増への地域の反応と、留学生の社会統合の課題について考察する。

1.　南オーストラリア州における留学生の受入れ

オーストラリアの留学生 526,932 人(2013 年)の内、 SA 州は 5.1%に当たる 26,764 人を受け入れている。図 1 は、2002 年から 2013 年にかけての SA 州の留学生数と、高等教育、職業教育訓練(VET)、語学教育(ELICOS)という主要学種別留学生数を示している。SA 州は、2002 年から 2010 年にかけての留学生増加率が 3.05 倍と、全州・準州・首都特別地域中最も高かった（全国値の伸び率 2.25 倍)。この内、高等教育分野の伸びは 3.01 倍だが、VET 分野は 7.38 倍に急増している。また、国別では、中国出身者が 17.4%から 39.2%、インド出身者が 2.3%から 19.3%に増加した。

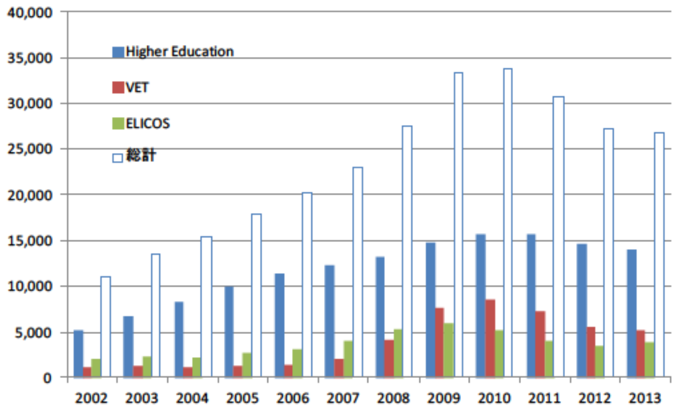

図1 南オーストラリア州における留学生受け入れ数の変遷
出所：AEI（2014）に基づき筆者作成

2.　SA 州の戦略計画の改定

SA 州の Rann 労働党政権は 2004 年に戦略計画を発表し、2014 年までの目標を分野別に示し、留学生の増加、海外移民の増加を、「競争力、回復力、多様性に富んだ活力ある経済」にとって重要な要素と位置づけ、2014 年までに留学生受入れ数の SA 州の全国シェアを 2 倍（8.8%）にする、海外移民を年間 8,500 人増加するなどの数値目標を挙げていた。

しかし、同じ Rann 政権下で 2011 年に、9,200 名に上る住民からのヒアリングを経て改定された戦略計画では、留学生増加は経済目標から外され、計画後半の教育の項に移され、全国シェアを 2 倍にするという目標は、2014 年までに留学生を 45,000 人という現実的な目標に修正された。海外移民増加の数値目標も外されている。

3.　聞取り調査結果

SA 州の留学生の社会統合状況を知るため、2013 年に、SA 州で働く元留学生 9 名に聞取り調査を行った。9 名の内、大学のクラブ活動でオーストラリア人学生との交流があった者が 5 名、学生会への参加者が 2 名いたが、学外での地域住民との交流事業参加者はおらず、住民との接点は、アルバイトや大家との関係が中心であった。インド人回答者の一人は「勉強やアルバイトが忙しくてほとんど交流がなかった。地元の人との接触は、家を探した時だけ。自分はインドの留学生と固まりがちだった」と回答している。また、学んだ専門を活かした職についているのは 5 名で、残りの 4 名は専門外の仕事をしている。旅行代理店に務めるインド人は「工学分野では、SA 州の 1 つのポストに 20 名の学生が殺到する。工学の学位があっても、その分野で就職できる人はごくわずか」と語っていた。

4.　考察

州の戦略計画における留学生誘致目標の引き下げや EA への予算停止決定の背景には、移住目的で留学し、地域住民との接点が少なく、社会に溶け込む意欲も時間も少ない留学生の急増が、SA 社会に不安や反発を生じさせたと推定される。また、技術移民政策おける地方留学・定着促進策は、留学生増加につながったものの、農業や鉱業以外に目立った産業が少ない SA 州で人材の定着先がないというジレンマにつながっている。